

# 岡山県ウェブコンテンツ作成指針



## 目次

---

第1	目的.....	4
第2	参考規格 .....	4
第3	用語及び定義 .....	5
第4	適用範囲 .....	5
第5	基本方針 .....	5
第6	ウェブアクセシビリティの確保・向上に関する全般的要件.....	7
第7	ウェブコンテンツに関する達成基準	
	代替テキスト	
1	テキストでない情報には適切な代替テキストを提供する .....	8
	時間の経過に伴って変化するメディア	
2	音声のみ若しくは映像のみのコンテンツに対して、代替情報を提供する .....	10
3	同期したメディアに含まれる音声コンテンツに対して、字幕を提供する .....	10
4	同期したメディアに含まれる収録済みの映像コンテンツに対して、 音声ガイドを提供する.....	10
	適応可能	
5	文書の構造は、適切な HTML 要素を用いて記述する .....	12
6	ウェブコンテンツの意味の順序と、読み上げ順序を一致させる .....	15
7	形、大きさ、位置、方向、音だけに依存した情報を提供しない .....	17
	識別可能	
8	色の違いだけに依存した情報を提供しない.....	18
9	ウェブコンテンツの音声は、音声読み上げソフトの音声を妨げない .....	19
10	文字色と背景色のコントラストを確保する.....	19
11	文字サイズを変更可能にする .....	21
12	必要不可欠な場合を除いて、画像化された文字を使用しない .....	22

## キーボード操作可能

- 13 キーボード操作だけで、すべての情報・機能が利用できるように作成する..... 23

## 十分な時間

- 14 コンテンツの利用には、原則として時間制限を設けない ..... 24

- 15 コンテンツを動かしたり、自動更新させたりしない ..... 25

## 発作の防止

- 16 閃光を放つコンテンツは、閃光の回数・大きさ・色彩を調整する ..... 26

## ナビゲーション可能

- 17 複数のページで繰り返されるコンテンツは、読み飛ばせる仕組みを提供する ..... 27

- 18 分かりやすいタイトルをつける ..... 28

- 19 ウェブコンテンツの意味の順序とフォーカスの順序を一致させる ..... 29

- 20 リンク先を予測できるリンクテキストをつける ..... 30

- 21 一つのコンテンツに対して、複数の到達手段を提供する ..... 32

- 22 分かりやすい見出しやラベルをつける ..... 33

- 23 フォーカスされている項目が視覚的に認識できるようにする ..... 33

- 24 現在位置を示す ..... 34

## 読みやすさ

- 25 言語を指定する ..... 35

- 26 分かりやすい言葉・表現を使用する ..... 36

## 予測可能

- 27 フォーカスを受け取った時に、状況を変化させない ..... 37

- 28 ボタン等を操作した時に限り、状況を変化させる ..... 37

- 29 共通するナビゲーションを提供する ..... 38

- 30 同じ機能・内容をもつウェブコンテンツには、一貫した名称を用いる ..... 39

## 入力支援

31 入力フォームの入力条件やエラー内容は、テキストで明確に示す .....	40
<b>互換性</b>	
32 ウェブコンテンツ技術の仕様に準拠する .....	42
<b>その他</b>	
33 一般的なルールや法規を遵守する .....	43
<b>第8 試験実施方法 .....</b>	<b>44</b>
<b>附則 .....</b>	<b>44</b>
<b>付属資料</b>	

## 第1 目的

---

インターネットに代表されるIT（情報通信技術）の進展とともに、多くの人々がウェブコンテンツ技術によって実現されたサービスを利用するようになってきている。このような中で、ウェブアクセシビリティ（高齢者や障害者といったホームページ等の利用に何らかの制約があったり利用に不慣れな人々を含めて、誰もがホームページ等で提供される情報や機能を支障なく利用できること）の確保と向上が求められ、日本工業規格にウェブアクセシビリティに関する規格（JISX8341-3）が制定された。

「岡山県ウェブコンテンツ作成指針」（以下「本指針」という。）は、JISX8341-3を踏まえ、岡山県のウェブコンテンツについて、誰もがウェブコンテンツを知覚し、理解し、操作できるようにするため、ウェブコンテンツの企画、設計、制作・開発、検証及び保守・運用をするときに配慮すべき事項を定めたものである。

## 第2 参考規格

---

本指針は、次の規格及び文書に基づいて要件を定める。

- 1 JIS X 8341-1:2010 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第1部：共通指針
- 2 JIS X 8341-3:2010 高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ

また、上記2に示される達成基準を満たすための具体的な実装方法や達成基準の意図を理解するため、World Wide Web Consortium(W3C)<sup>1</sup>及びウェブアクセシビリティ基盤委員会<sup>2</sup>が公開している次の文書も参考にする。

- 3 Techniques for WCAG 2.0  
～参考URL～  
<http://www.w3.org/TR/WCAG-TECHS/>  
WCAG2.0 解説書（日本語訳）  
～参考URL～  
<http://www.ciaj.or.jp/access/web/docs/WCAG-TECHS/Overview.html>
- 4 Understanding WCAG 2.0  
～参考URL～

---

<sup>1</sup>大学、研究所、企業などで構成されるインターネット技術の標準化と推進を目的とする国際的な学術団体

<sup>2</sup> JIS 改正原案作成メンバー、関係省庁などにより構成される JISX8341-3 の理解と普及を目的とする組織

<http://www.w3.org/TR/UNDERSTANDING-WCAG20/>

WCAG2.0 実装方法集（日本語訳）

～参考URL～

<http://www.ciaj.or.jp/access/web/docs/UNDERSTANDING-WCAG20/Overview.html>

### 第3 用語及び定義

---

本指針で用いる主な用語及び定義は、JIS X8341-1:2010、JIS X8341-3:2010 による。

### 第4 適用範囲

---

#### 1 対象とするウェブコンテンツ

岡山県公式ホームページ（<http://www.pref.okayama.jp/>配下のウェブページ一式）。

ただし、岡山県公式ホームページ以外のウェブコンテンツについても、本指針に準じウェブアクセシビリティの確保、向上に努める。

#### 2 対象とするウェブコンテンツ技術

岡山県公式ホームページ上で公開される HTML、CSS、Javascript、PDF、JPG、GIF、PNG 及び FLASH。

ただし、個別技術の採用すべきバージョン・機能等は、コンテンツ作成時期によって異なるため、本指針では規定しないが、ウェブページ及びウェブページ一式を作成する際、個別に定めることを推奨する。

#### 3 対象とする時期

岡山県公式ホームページ上のコンテンツの新規作成時及び更新時。

ただし、岡山県公式ホームページ内に本指針に反する内容が認められた場合には、内容の更新時期にかかわらず、当該部分の積極的な改修を行う。

#### 4 対象とする作成者

岡山県公式ホームページへ掲載するコンテンツを作成する者（岡山県から作成業務を委託された者を含む）

### 第5 基本方針

---

#### 1 全般的事項

- (1) JIS X 8341-3:2010 を尊重し、誰もがウェブコンテンツを知覚し、理解し、操作できるように規格の示す要件に従ってできる限りの対応を行う。

- (2) JIS X 8341-3:2010 に規定するウェブコンテンツのアクセシビリティ達成等級については、ウェブページ一式を単位として別に定める。

## 2 本指針に関する事項

- (1) 具体的な実装方法及び実装例を記すことによりウェブコンテンツに関する専門的な知識の有無にかかわらず、十分な理解ができるよう配慮する。
- (2) 実装方法は、原則として **HTML** 及び **XHTML** に関して示す。なお、特定の技術・バージョンに依存する表現については、ウェブコンテンツ技術や利用者が用いる支援技術の発展などに対応できるように定期的な見直しを行う。



## 第6 ウェブアクセシビリティの確保・向上に関する全般的要件

---

### 1 企画・設計

---

- (1) ウェブコンテンツの企画に当たっては、本指針を基に、JIS X8341-3 : 2010 による達成等級を含むウェブアクセシビリティ方針を定める。
- (2) ウェブコンテンツの内容や設計時点での技術動向等に応じて、使用するウェブコンテンツ技術及び実装方法を適切に選択する。
- (3) ウェブコンテンツ作成ソフト（CMS を含む）は、本指針に示す達成基準を満たすことを補助する機能を持つものを選定することが望ましい。

### 2 制作・開発

---

- (1) 本指針に定める達成基準を満たすように制作・開発を行う。

### 3 検証

---

- (1) ウェブサイトを公開する際は、本指針「試験実施方法」に示す方法により達成基準が満たされていることを可能な限り検証する。
- (2) 高齢者・障害者支援技術など新しい検証用プログラムを必要に応じて利用する。

### 4 保守・運用

---

- (1) ウェブサイト公開時だけでなく、保守・運用時にわたってウェブアクセシビリティの品質を確保し維持・向上するように努める。
- (2) 利用者の意見、要望、質問は、積極的にウェブコンテンツへ反映するように検討する。
- (3) ウェブコンテンツには、電子メール、電話及びFAXなど複数の問い合わせ手段を併せて明示する。

## 第7 ウェブコンテンツに関する達成基準

### 代替テキスト<sup>3</sup>

#### 1 テキストでない情報には適切な代替テキストを提供する

(7.1.1.1/A)

##### 【達成のためのポイント】

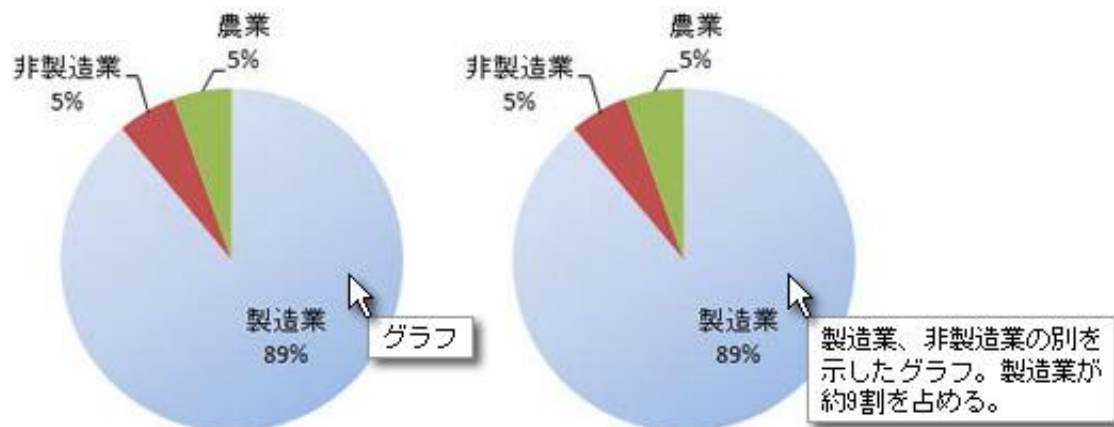
- (1) img 要素、area 要素及び input 要素の画像ボタンには、alt 属性を付与する。
- (2) alt 属性は、前後の文脈から判断して適切な文章を記述する。
- (3) 装飾目的、整形目的の画像には、「alt=""」を記述する。
- (4) ASCII アート、顔文字は使用しない。

##### 【解説】

画像などのテキストでない情報は、代替テキストを提供することにより音声や点字のような利用者が必要とする形式に変換し、利用することができます。画像の代替テキストは、画像の内容や役割を端的に表現することが求められますが、何の画像であるかよりも、画像が文脈においてどのような意味を持っているかを伝える必要があります。

また、文字を組み合わせせてその形状を絵や顔等に見立てた表現は、文字として意味が伝わらないので使用しないでください。

図1：適切でない代替テキスト（左）と適切な代替テキスト（右）の例

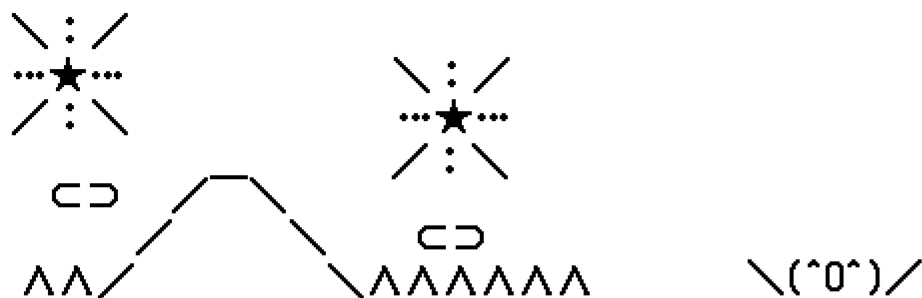


```

```

<sup>3</sup> 画像の代わりとなるテキスト。img 要素、area 要素等においては、alt 属性によって提供されます。

図 2 : ASCII アート (左) と顔文字 (右) の例



ASCII アートとは、罫線やカッコなどの記号や文字を組み合わせて、視覚的な表現を行うものです。

## 時間の経過に伴って変化するメディア

---

### 2 音声のみ<sup>4</sup>若しくは映像のみのコンテンツ<sup>5</sup>に対して、代替情報を提供する

---

(7.1.2.1/A)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) 音声のみの情報に対して、その音声に含まれる情報をテキストでも提供する。
- (2) 映像のみの情報に対して、その映像に含まれる情報をテキスト若しくは音声でも提供する。

### 3 同期したメディア<sup>6</sup>に含まれる音声コンテンツに対して、字幕を提供する

---

(7.1.2.2/A、7.1.2.4/AA)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) 同期したメディアに含まれる収録済みの音声コンテンツに対して、字幕を提供する。
- (2) 同期したメディアに含まれるすべての生中継の音声コンテンツに対して、字幕を提供する。

### 4 同期したメディアに含まれる収録済みの映像コンテンツに対して、音声ガイドを提供する

---

(7.1.2.3/A、7.1.2.5/AA)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) 同期したメディアに含まれるすべての収録済みの映像コンテンツに対して、音声ガイドを提供する。

#### 【解説】

音声や映像など時間の経過に伴って変化するメディアを使用する場合には、収録済みであるか生中継であるか、同期したメディアであるかどうかによって、求められる対応が異なります。図3を参考に、どのような達成方法を採用すべきか確認しましょう。

---

<sup>4</sup> ラジオ放送を録音したもの、朗読や講話、対談、音楽など

<sup>5</sup> 風景の映像、無声映画、スライドショーなど

<sup>6</sup> 映画（映像とセリフや音楽）、コンサート（歌手・演奏者の映像と音楽）など

図 3：音声もしくは映像コンテンツを掲載する際の対応方法フローチャート

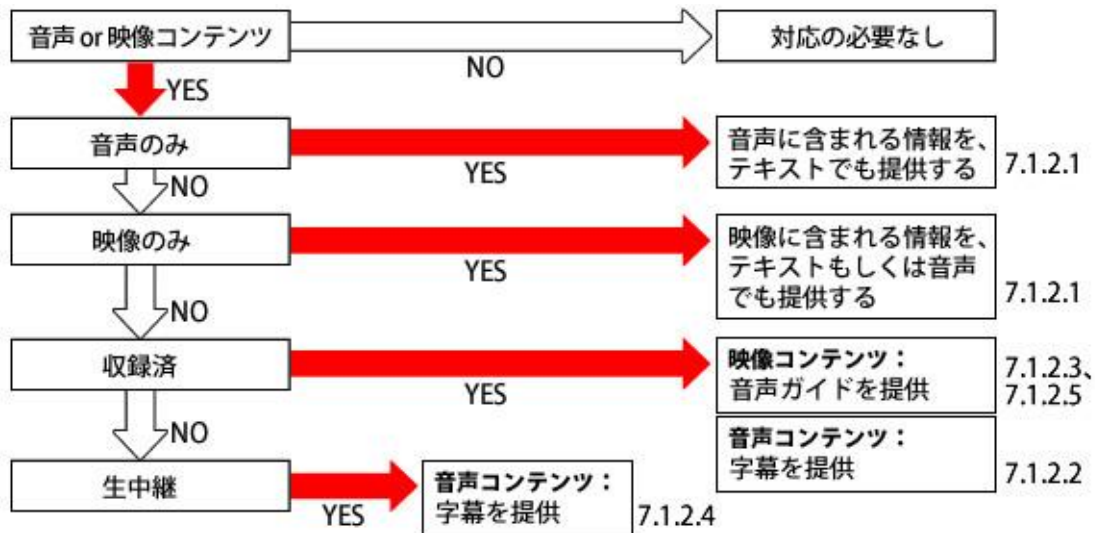


図 4：字幕を付加した映像ファイルの例



## 5 文書の構造は、適切な HTML 要素を用いて記述する

---

(7.1.3.1/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 見出しは、見出し要素 (**h1**、**h2**、**h3**、**h4**、**h5**、**h6**) を用いて表現する。
- (2) 各ページのコンテンツには、ページの主題を **h1** として記述する。
- (3) 箇条書きは、**ol**、**ul**、**dl** 要素を用いて表現する。
- (4) 強調は、**strong**、**em** 要素を用いて表現する。
- (5) 表<sup>7</sup>を使用する前に、表以外に適した表現がないかを検討する。
- (6) 表を使用する際は、見出しを表す **th** 要素と、データを表す **td** 要素を適切に使用する。
- (7) データテーブル<sup>8</sup>では、**caption** 要素を用いて表題を記述する。
- (8) データテーブルでは、**headers**、**scope**、**id** 属性を用いて見出しとデータの関連性を明示する。
- (9) ラジオボタン、チェックボックス、テキストフィールド（入力欄）などの入力フォームを構成する部品は、**label** 要素及び **for**、**id** 属性を用いて、ラベルとの関連を明示する。

### 【解説】

HTML は、見出しや箇条書き、段落などの構造を記述するためのものです。ウェブコンテンツの文書構造に応じた適切な HTML 要素を用いることにより、文字の大きさや太さ、色といった視覚的な情報に頼ることなく、文書の内容が理解しやすくなります。

表は、縦横の関係を把握しなければならないため、音声読み上げソフトを使用した場合、内容を正しく理解することが難しい場合があります。そのため、表を使用することが最適な表現であるかを十分検討してください。また、表を使用する際には表の構造を示す HTML 要素を適切に用いることが重要です。

問い合わせや申込等で用いる入力フォームでは、ラジオボタン、チェックボックス、テキストフィールド（入力欄）などの入力フォームを構成する部品がラベルと関連付けられていない場合、誤操作の原因となる、又は何を入力すれば良いのか分からなくなる恐れが

---

<sup>7</sup> 表は、その役割によって「レイアウトテーブル」と「データテーブル」に分類されます。

<sup>8</sup> 表組み (**table** 要素) 本来の使い方。行と列の組み合わせによって、セルの内容 (値) が定まる。一方、レイアウトテーブルは、コンテンツの配置を制御するために置かれる表。枠の大きさや位置を決めるためにのみ使用される。

あります。

図 5 : 文書の構造が適切に記述された例

The screenshot shows the Yamaguchi Prefecture website. The main content area is titled "県政ハイライト2010" (County Government Highlights 2010) and is dated December 24, 2010. The page lists several news items, each with a date and a title. The HTML structure is as follows:

```
<h1>県政ハイライト2010</h1>
<h2>1月</h2>
<h3>岡山県地域医療再生計画を策定</h3>
<p>15日、地域や診療科による医師の偏在、県北地域などの医療提供体制の整備など…</p>
<h3>第28回全国都道府県対抗女子駅伝で岡山県チームが初優勝</h3>
<p>17日、47都道府県の女子ランナーが都大路で激突する「皇后盃第28回全国…</p>
<h2>2月</h2>
<h3>岡山県教育振興基本計画－未来を拓く人づくりプラン－の策定</h3>
…
```

このページの主題である「県政ハイライト2010」を h1 要素で、次のレベルの見出し「1月」、「2月」を h2 要素で記述しています。また、出来事など並列関係にある見出しはすべて h3 要素で記述されているなど、文書構造が適切な HTML 要素によって示されています。

図 6 : 箇条書きの使い分け例

ul	ol	dl						
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 岡山市</li> <li>• 倉敷市</li> <li>• 津山市</li> <li>• 玉野市</li> <li>• 笠岡市</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 富士山</li> <li>2. 北岳</li> <li>3. 奥穂高岳</li> <li>4. 間ノ岳</li> <li>5. 槍ヶ岳</li> </ol>	<table border="0"> <tr> <td>松</td> <td>常緑の高木で、針葉樹</td> </tr> <tr> <td>竹</td> <td>イネ目イネ科タケ亜科</td> </tr> <tr> <td>梅</td> <td>バラ科サクラ属の落葉高木</td> </tr> </table>	松	常緑の高木で、針葉樹	竹	イネ目イネ科タケ亜科	梅	バラ科サクラ属の落葉高木
松	常緑の高木で、針葉樹							
竹	イネ目イネ科タケ亜科							
梅	バラ科サクラ属の落葉高木							
<pre>&lt;ul&gt;   &lt;li&gt;岡山市&lt;/li&gt;   &lt;li&gt;倉敷市&lt;/li&gt;   &lt;li&gt;津山市&lt;/li&gt;   &lt;li&gt;玉野市&lt;/li&gt;   &lt;li&gt;笠岡市&lt;/li&gt; &lt;/ul&gt;</pre>	<pre>&lt;ol&gt;   &lt;li&gt;富士山&lt;/li&gt;   &lt;li&gt;北岳&lt;/li&gt;   &lt;li&gt;奥穂高岳&lt;/li&gt;   &lt;li&gt;間ノ岳&lt;/li&gt;   &lt;li&gt;槍ヶ岳&lt;/li&gt; &lt;/ol&gt;</pre>	<pre>&lt;dl&gt;   &lt;dt&gt;松&lt;/dt&gt;   &lt;dd&gt;常緑の高木で、針葉樹&lt;/dd&gt;   &lt;dt&gt;竹&lt;/dt&gt;   &lt;dd&gt;イネ目イネ科タケ亜科&lt;/dd&gt;   &lt;dt&gt;梅&lt;/dt&gt;   &lt;dd&gt;バラ科サクラ属の落葉高木&lt;/dd&gt; &lt;/dl&gt;</pre>						

ul 要素は番号のつかない箇条書き、ol 要素は番号付きの箇条書き、dl は用語とその定義を示す場合に用いられます。

図 7 : 強調例

**重要な部分は、強調するための要素を用います。**

<p>重要な部分は、<strong>強調</strong>するための要素を用います。</p>

strong 要素は「強調」を示しています。視覚的には一般的に太字で表現されます。

図 8 : 入力フォームを構成する部品とラベルを関連付けた例

岡山県内   
  岡山県外

```
<label for="kennai">
<input type="radio" name="radio" id="kennai" value="kennai" />岡山県内</label>
<label for="kengai">
<input type="radio" name="radio" id="kengai" value="kengai" />岡山県外</label>
```





図 11 : (悪い例) ソースコードと表示が異なる例

```
1.卵と牛乳を混ぜる。
2.ホットケーキミックスを加え、さっくりと手早く混ぜる。
3.フライパンを中火で熱する。
```

**HTML**

```
<p class="tejun1">1.卵と牛乳を混ぜる。</p>
```

```
<p class="tejun3">3.フライパンを中火で熱する。</p>
```

```
<p class="tejun2">2.ホットケーキミックスを加え、さっくりと手早く混ぜる。</p>
```

**CSS**

```
.tejun3 {margin-top: 3em;}
```

```
.tejun2 {position: absolute;top: 2em;}
```

HTML 上は、手順 1→3→2 の順で記述されているが、1→2→3 の順に表示されるよう構造を無視した位置指定がされています。

図 12 : 単語内にスペースが入っている場合の読み上げ例

表記	読み上げ例	改善例
経 済	ケイ スミ	経済
位 置	クライ チ	位置
人 口	ヒト クチ	人口

単語の途中にスペースや改行が入っていると、音声読み上げソフトでは一つの単語として認識できず、期待する読み上げができなくなる場合があります。

## 7 形、大きさ、位置、方向、音だけに依存した情報を提供しない

(7.1.3.3/A)

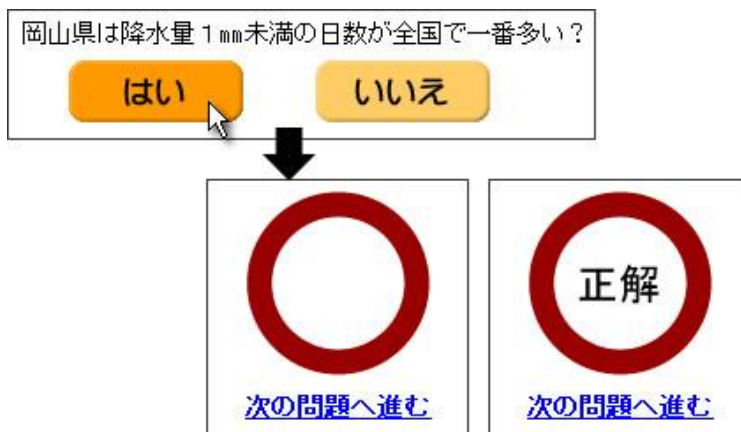
### 【達成のためのポイント】

- (1) 形・大きさ・位置・方向・音だけでなく、テキストの情報を併記する。
- (2) 感覚的な表現が、一般的なルールとして認知されている場合には、積極的に使用する。

### 【解説】

形・大きさ・位置・方向・音だけに依存した情報を提供した場合、それらを認識できない、又はその意味を理解できないとき、文書の内容を理解することが難しくなります。

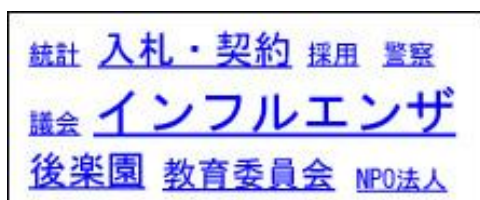
図 13：形のみで情報を提供している例（左）と、改善例（右）



「正解」という意味を「○」という形だけで表現するのではなく、「正解」というテキストを併記することにより意味を明確にしています。

ただし、クイズの答えに関するページで「○」が表示されている場合、それは「正解」を意味することは一般的であるので「○」という形は積極的に使用することが望ましいと言えます。

図 14：(悪い例) タグクラウド



ブログ等で見られる「タグクラウド」と呼ばれる表現。文字の大きさによって、検索回数や人気度、記事の数などを表していますが、音声読み上げソフトなど文字の大きさを認識できない場合には、意味のない情報になってしまいます。

## 8 色の違いだけに依存した情報を提供しない

(7.1.4.1/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 色だけでなく、テキストの情報を併記する。
- (2) 色を用いた表現が直感的な理解につながる場合には、積極的に使用する。

### 【解説】

色の違いだけに依存した情報を提供した場合、色の違いを認識できないとき、文書の内容を理解することが難しくなります。色を使って情報を提供する場合、テキストの情報も併記しましょう。

図 15 : 色のみで情報を提供している例（左）と、改善例（右）

		■ 警報	■ 注意報		
南部	岡山	大雨	洪水	大雨注意報	洪水
	東備	大雨	洪水	大雨警報	洪水
	倉敷	大雨	洪水	大雨警報	洪水
	廿笠				

赤色の背景色で警報、黄色の背景色で注意報を表現しています。「大雨」「洪水」の文字しかないので、音声読み上げソフトやモノクロプリンタなどでは色に依存した情報が損なわれてしまいます。

ただし、色の違いが分かる場合には、「赤」や「黄」が持っている注意喚起の意味や度合いを生かした効果的な表現と言えます。

## 9 ウェブコンテンツの音声は、音声読み上げソフトの音声を妨げない

(7.1.4.2/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 音声を自動的に再生しない。

### 【解説】

音声を自動的に再生した場合、その音と音声読み上げソフトの読み上げ音声が重なってしまい、理解を妨げてしまいます。また、音が鳴ることが好ましくない環境で使用している、又は音が鳴ることにより情報を読むことに集中できなくなることもあります。そのため、音声を自動的に再生することは避けてください。

なお、警告などの目的で発せられる極短時間の音声については、許容されます。

## 10 文字色と背景色のコントラストを確保する

(7.1.4.3/AA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) テキストの文字色は黒 (#000000) から濃灰色 (#333333)、背景色は白 (#ffffff) から薄灰色 (#cccccc) の無彩色を基本とする。
- (2) 文字色及び背景色に有彩色を用いる場合やリンク文字色・強調など通常のテキストとは視覚的に異なる表現を用いる場合には、(1)と同等以上のコントラストを確保する。
- (3) 文字及び背景に（単色ではない）画像を用いる場合、(1)と同等以上のコントラストを確保する。
- (4) 文字周辺部には、色の変化が大きな背景画像を使用しない。
- (5) 文字色と背景色のコントラストが確保できない場合には、文字周辺部の縁取りなど適切な処理を行なった画像を使用する。

### 【解説】

JIS X8341-3:2010 では、確保すべきコントラスト比を数値で定めていますが、本指針では、標準色を例示することにより当該要件への対応を図ります。原則として、通常のテキストの文字色を、#000000 から#333333 の範囲、背景色を、#ffffff から#cccccc の範囲にある無彩色（白と黒を混ぜて得られる色）とします。

なお、それら以外の文字色及び背景色を用いる場合には、JIS X8341-3:2010 に規定するコントラスト比（4.5 : 1）を遵守してください。画像化された文字や背景画像を用い

る場合についても、できる限り同等のコントラストを確保しましょう。

図 16：標準色の組み合わせ例<sup>9</sup>

背景色 #ffffff	背景色 #dddddd	背景色 #cccccc
岡山県(#000000)	岡山県(#000000)	岡山県(#000000)
岡山県(#101010)	岡山県(#101010)	岡山県(#101010)
岡山県(#252525)	岡山県(#252525)	岡山県(#252525)
岡山県(#333333)	岡山県(#333333)	岡山県(#333333)

図 17：画像化された文字のコントラスト確保例



同じ写真に、同じ文字色を用い、文字周辺のみ加工を施しています。

文字だけでは、写真と色が重なってしまう部分があり読みにくくなってしまいます（左）が、文字周辺の縁取りをしたり（中央）、背景へ色の帯を置いたり（右）することにより十分なコントラストが確保され文字が読みやすくなっています。

<sup>9</sup> 本指針をモノクロで印刷している場合、上記の色は正しく表示されませんので、全庁共通システムから原文のファイルを参照してください。

## 11 文字サイズを変更可能にする

(7.1.4.4/AA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 文字サイズを指定する際は、絶対指定 (px、pt) ではなく、相対指定 (em、%、キーワード (small、large 等)) を用いる。
- (2) ウェブページ上に文字サイズを変更 (200%に拡大) できる仕組みを提供する。
- (3) 文字サイズを 200%まで拡大しても、すべてのコンテンツ・機能がスクロールにより表示されるように設計する。

### 【解説】

弱視の利用者や高齢者にとっては、通常の文字サイズのままでは小さく読みづらいと感じることがあるかも知れません。そのため、利用者が読みやすいと感じる文字サイズに自由に変更できる必要があります。

多くのウェブブラウザには、文字サイズを変更する機能が備わっていますが、ウェブページ上にその様な仕組みを提供することにより、より簡単な操作で快適な閲覧環境を得ることができるようになります。

その際、文字サイズが変わったことによって特定の情報が失われてしまうことのないように注意が必要です。

図 18 : ウェブページに備えられた文字サイズを変更できる仕組み



## 12 必要不可欠な場合を除いて、画像化された文字を使用しない

(7.1.4.5/AA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 主たるコンテンツは、写真・グラフなど視覚的な表現が求められる場合を除いて、テキストで表現する。
- (2) 画像化された文字を用いる場合には、記号的に用いる場合を除いて、14ポイント以上の大きさを確保する。

### 【解説】

テキスト情報であれば、文字の拡大や色の変更など利用者にとって読みやすい表示に変更できますが、画像化された文字では、それができません。そのため、必要不可欠な場合を除いて画像化された文字は用いないようにします。

図 19：必要不可欠と認められる画像化された文字の例



The image shows a handwritten signature in black ink. The characters are '岡山太郎' (Okayama Taro), written in a bold, expressive cursive style.

県章及びロゴタイプという視覚的表現は、そのロゴのアイデンティティとして不可欠です。また、サイン（署名）は、書き手の特定、又は本人の意思を示したものでありテキストで同様の文字列が掲載されている場合とは異なる意味を持っているため必要です。



### 13 キーボード操作だけで、すべての情報・機能が利用できるように作成する

---

(7.2.1.1/A、7.2.1.2/A)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) リンクを設定する際は、a 要素の href 属性を用いる。
- (2) 入力フォームを用いる際は、button、fieldset、legend、select、option、textarea 要素、input 要素の type = "button"、type = "submit"、type = "reset"、type = "image"、type = "text"、type = "password"、type = "checkbox"、type = "radio" 属性のみを用いる。
- (3) HTML 以外のウェブコンテンツ技術で入力フォームを実現する場合には、そのウェブコンテンツ技術が持つ標準的かつアクセシブルな部品を用いる。

#### 【解説】

目と手を一緒に使うマウスは、全盲の視覚障害者には使用することができません。そのため、マウスを使うことなく、キーボード操作だけですべての情報や機能を利用できるようにすることが必要です。

また、画面上のポインタ（マウスカーソル）を見つけたり、目で追ったりするのが困難な利用者や、手が震えたり、手の可動範囲に制限がある利用者についても同様です。

入力フォームを作成する際、HTML による場合は、入力フォームを構成する部品及びリンクを適切に記述することが必要ですが、FLASH 及びスクリプト等で入力フォームを生成する場合も同様です。

なお、画面上に絵を描くなどマウスの軌跡（移動方向や移動速度）に依存している機能については、キーボードで同様の表現をすることができないため例外とします。

### 14 コンテンツの利用には、原則として時間制限を設けない

---

(7.2.2.1/A)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) コンテンツの閲覧時間・操作可能時間には、原則として制限を設けない。ただし、イベントや施設利用の申込など情報の性質上、制限時間を設定する場合を除く。
- (2) コンテンツの閲覧時間・操作可能時間に制限を設ける場合には、利用者の操作によってその制限時間を延長することができるようにする。

#### 【解説】

ウェブコンテンツを利用するためにかかる時間は、その利用者の機器や身体的な特性によって大きく異なります。制限時間を設けることにより想定する作業を完了できない、又は意図しない申込をしてしまうなど、様々な不都合が生じる可能性があります。そのため、期日が定まっているイベントや施設利用申込など制限時間を設定することがやむを得ない場合を除いて、コンテンツの利用には時間制限を設けないようにウェブコンテンツを設計しましょう。

また、セキュリティ確保の都合などでコンテンツの利用に時間制限を設ける場合には、利用者自身の操作によって、それを延長できるようにすることが必要です。

## 15 コンテンツを動かしたり、自動更新させたりしない

(7.2.2.2/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 画像を点滅させない。ただし、第三者から提供される画像等で使用することがやむを得ない場合を除く。
- (2) 画像のアニメーションは、5秒以内で終了させる。また、アニメーション停止後も、画像の意味が伝わるよう表現を工夫する。
- (3) FLASH、Java、Javascriptなどでアニメーション・スライドショーを行なう場合には、分かりやすい場所に一時停止ボタンを設置する。
- (4) 画面の一部・全部を問わず自動スクロールを行わない。
- (5) 一定時間経過後であるか、瞬時であるかを問わず、コンテンツの自動更新を行わない。

### 【解説】

画像が点滅する、又は文字や画面の一部が移動することにより、その情報を読み取れない、又は変化に追いつくことができず思い通りの操作ができなくなる可能性があります。

また、コンテンツが自動的に更新されると、それまでの情報を把握する前に新たな情報に置き換わってしまい、コンテンツを理解することが難しくなってしまいます。

そのため、コンテンツを動かすことはできるだけ避けましょう。アニメーション・スライドショーを行なう場合には、容易に停止させることができるような配慮が必要です。

### 図 20 : (好ましくない例) テキストのスクロール (移動)

お知らせ 観測設備の保守点検作業に伴い、観測情報

お知らせ 保守点検作業に伴い、観測情報の一部に欠測を生じる場合があります。あらかじめ御理解の上

「お知らせ」の内容が、右から左に移動しているため、情報を追うことが難しくなる可能性がある。

### 16 閃光を放つコンテンツは、閃光の回数・大きさ・色彩を調整する

---

(7.2.3.1/A)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) 閃光を放つコンテンツは、原則として公開しない。
- (2) 閃光を放つコンテンツを公開する場合、閃光は1秒間に3回以下であるものに限る。

#### 【解説】

光過敏性発作の疾患のある利用者は、数回以上の閃光があり一定の周期で閃光を放つコンテンツによって発作を引き起こされる恐れがあります。情報が得られないということだけでなく、身体の安全に関わる事象ですので十分な配慮が必要です。閃光を放つコンテンツは、閃光を放つ部分を失うことにより情報の本質が損なわれたり、表現として不足したりする場合に限り公開できるものとします。アニメーション画像及び映像コンテンツが対象となりますが、全てのシーンを漏れなく確認しましょう。

また、やむを得ず閃光を放つ箇所を含むコンテンツを公開する場合には、閃光がどの1秒間においても3回以下になるように対象コンテンツを編集することが必要となります。

### 17 複数のページで繰り返されるコンテンツは、読み飛ばせる仕組みを提供する

(7.2.4.1/A)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) 各ページの先頭に、そのページの主たるコンテンツへのリンクを画面に表示させる。ただし、容易に見つけることができない画像を用いる、又は CSS を無効にした場合のみ表示される方法は避ける。

#### 【解説】

サイトロゴ、主要なカテゴリへのリンク、検索機能など複数のページで繰り返されるコンテンツは、サイトの使い勝手を高める上で有効なため設置されることが望ましい。しかしながら、キーボードを使用して一つ一つの項目を順に操作する利用者には、ウェブページの情報そのものにたどり着くまで必要以上に多くの操作を強いることになってしまいます。見出し (h1~h6 要素) に移動する機能を備えたソフトの場合には、達成基準「5.文書の構造は、適切な HTML 要素を用いて記述する」を満たすことにより、読み飛ばすのと同等の機能を有することになります。また、そのような機能を備えていないソフトに対しても、読み飛ばせる仕組みを用意することが必要です。

なお、JIS X 8341-3:2004 附属書 1 に例示されていた透明の GIF 画像の使用については、キーボードだけで操作している肢体不自由の利用者にとっては有用とは言えないため、視覚的に確認できるようにすることが必要です。

#### 図 21 : 「本文へ」というリンクによって、主たるコンテンツへのリンクを提供している例



「本文へ」が表示されていることにより音声読み上げソフトの利用者以外にも有用なものとなっています。

## 18 分かりやすいタイトルをつける

(7.2.4.2/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 各ページの title 要素には、サイトの構成情報及びページの主題を記述する。
- (2) 各ページの title 要素は、他ページと同一の文字列にしない。
- (3) 各ページの title は、先頭から 15 文字以内で他ページとの判別ができるよう工夫する。

### 【解説】

タイトル (HTML における title 要素) は、図 22 に示す部分で表示され、情報取得の手がかりとして役立ちます。そのため、タイトルがページの内容を適切に表していない、又は複数のページで同じタイトルがつけられている場合、目的のページを探し出しにくくなります。

また、タイトルが表示される部分には、図 23 のとおり一定の文字数以上は表示されない場合がありますので、表示される部分だけでページの識別ができるようにしましょう。

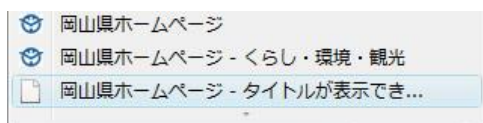
図 22 : タイトル表示箇所例



<title>岡山県ホームページ - 暮らし・環境・観光</title>

ウェブブラウザのタイトルバー (A)、検索結果のリンクテキスト (B)、ブックマークのラベル (C) などに title 要素の内容が表示されます。

図 23 : ブックマーク登録時のタイトル表示例



タイトルが長い場合、最後まで表示されない場合がある。

## 19 ウェブコンテンツの意味の順序とフォーカス<sup>10</sup>の順序を一致させる

(7.2.4.3/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 文書の内容や構造を無視した表示位置の指定をしない。
- (2) 入力フォームには、`tabindex` 属性を適切に使用し、意味を理解しやすい移動順になるよう設定する。

### 【解説】

キーボードで操作している利用者が、コンテンツ内を一つずつ順を追いながら行き来する場合、フォーカスは HTML が記述された順序若しくは HTML で指定された順序でリンクや入力フォーム内を移動します。そのため、利用者が想定するウェブコンテンツの意味の順序とフォーカスの順序が異なっている場合、文書の内容を理解することが難しくなります。

<sup>10</sup> ページ内のリンクや入力フォームなどが選択された状態。もしくは、入力が可能な状態。

## 20 リンク先を予測できるリンクテキストをつける

(7.2.4.4/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) リンクテキストだけでリンク先が予測できるように、リンク先の見出し要素等の文字列をリンクテキストとする。
- (2) 画像によるリンクの場合には、リンク先の内容を alt 属性として明示する。
- (3) 同一ページ内にリンク先の異なる複数の同一リンクテキストを用いない。
- (4) 「こちら」「詳細」などの曖昧なリンクテキストを用いる場合には、前後の文脈からリンク先の内容が予測できるように配慮する。
- (5) リンクの目的が、PDF 等のダウンロードである場合、ファイル形式及びファイルサイズをリンクテキストに含む、又は前後の文脈から容易に判断できるように配慮する。

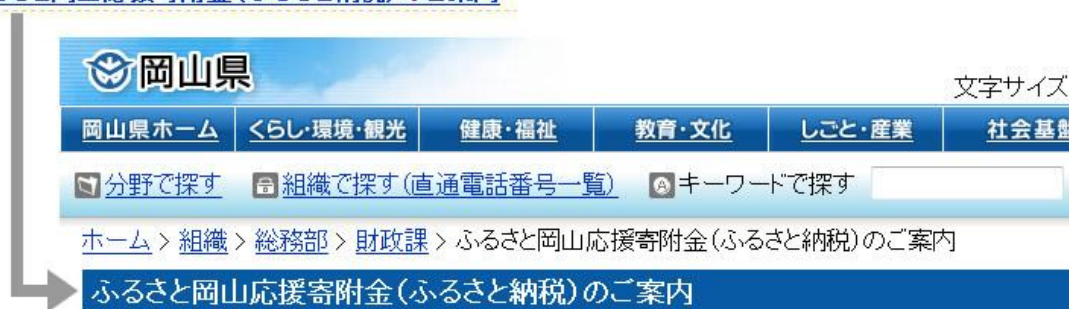
### 【解説】

リンクテキストの内容は、リンク先の内容を予測するために重要な情報です。リンクテキストの内容が不明確である、又はリンク先の内容と異なっていると利用者が混乱してしまう可能性があります。

「動画」、「ブロードバンド用」、「PDF」、「こちら」、「詳細」、「click」など、リンクテキストだけではリンク先を予測することができない曖昧なリンクテキストを採用する場合には、リンク先の内容を容易に理解できる説明を前後に付加することが必要です。

### 図 24 : 適切なリンクテキストの例

・ [ふるさと岡山応援寄附金（ふるさと納税）のご案内](#)



「ふるさと岡山応援寄附金（ふるさと納税）のご案内」という具体的なリンクテキストであり、かつ、リンク先の見出し要素 (<h1>) と一致しているため、混乱が生じにくくなります。



## 図 25: 曖昧なリンクテキストだが、直前の説明からリンク先が想像できる例 (1)

- 2010年11月24日  
平成23年度用のももっち年賀状データを作成しました。  
[詳しくはこちらをご覧ください](#)
- 2010年6月10日  
平成21年度の寄附金受入金額は2,036,324円でした。  
[詳しくはこちらをご覧ください](#)

## 図 26: 曖昧なリンクテキストだが、直前の説明からリンク先が想像できる例 (2)

・平成23年度当初予算について	<a href="#">Windows Media</a>	<a href="#">Windows Media(高画質)</a>
・県立児童会館閉館後の利活用について	<a href="#">Windows Media</a>	<a href="#">Windows Media(高画質)</a>
・岡山テルサについて	<a href="#">Windows Media</a>	<a href="#">Windows Media(高画質)</a>

図 25・26 はいずれも、リンク先の内容を表しているとは言えないリンクテキストが並んでいます。直前の内容を読むことによりリンク先の内容を判別することができます。また、図 27 のように改めると、より分かりやすいものになります。

## 図 27: 曖昧なリンクの改善例

- 2010年11月24日  
平成23年度用のももっち年賀状データを作成しました。  
[平成23年度用のももっち年賀状データ](#)
- 2010年6月10日  
平成21年度の寄附金受入金額は2,036,324円でした。  
[ふるさと岡山応援寄附金の受入実績](#)

前後の文脈に頼らなくても、リンクテキストだけでリンク先の内容が想像できます。

## 21 一つのコンテンツに対して、複数の到達手段を提供する

(7.2.4.5/AA)

### 【達成のためのポイント】

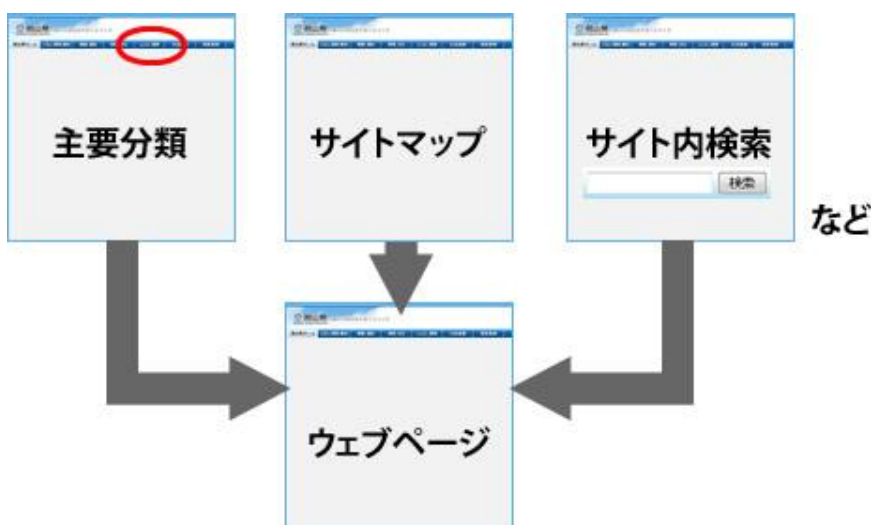
- (1) ウェブサイトにおける主要な分類から到達できるようにする。
- (2) サイトマップを提供する。
- (3) サイト内検索の機能を提供する。

### 【解説】

一つのコンテンツへの到達手段が、「主要分類」、「サイトマップ」、「サイト内検索」のうち1つの到達手段しか提供されていないと、その到達手段を見つけることができない場合目的のコンテンツにたどり着けなくなってしまいます。

そのため、「主要分類」、「サイトマップ」、「サイト内検索」のうち2つ以上の到達手段を提供し利用者にとって使いやすい到達手段を選択できるようにしましょう。

図 28：複数の到達手段のイメージ



## 22 分かりやすい見出しやラベルをつける

(7.2.4.6/AA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 見出しは、見出し要素 (h1、h2、h3、h4、h5、h6) を用いて表現する。
- (2) 見出しだけで、内容が理解できるようにページを作成する。
- (3) 入力フォームを構成する部品は、label 要素等を用いて、内容が理解できるように記述する。

### 【解説】

達成基準「5.文書の構造は、適切な HTML 要素を用いて記述する」では、見出し部分には、見出しの要素を用いることなど文書の構造を適切に記述することを求めています。そのことに加えて、この達成基準では、より内容を理解しやすくするために、意味のまとまりを考え、分かりやすい見出しやラベルをつけることが重要になります。

見出しを読むだけで、その見出し以下にどんな内容が記されているか分かるような見出しを作成すると、すぐに大まかな内容を理解できるため、効率的な情報検索ができるようになります。

## 23 フォーカスされている項目が視覚的に認識できるようにする

(7.2.4.7/AA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) リンクにフォーカスされた時、背景やボーダー（枠線）等に視覚的な変化が起こるようにする。
- (2) 入力フォームを構成する部品にフォーカスされた時、背景やボーダー（枠線）等に視覚的な変化が起こるようにする。

### 【解説】

フォーカスされている項目が視覚的に認識できるようになっていない場合、どこが操作対象か分からなくなります。その結果、思い通りの操作ができない、又は今、何を入力すべきなのか分からなくなることがあります。そのため、フォーカスされている項目に対して、視覚的な変化を起こさせることにより、何が操作対象であるか理解しやすくする必要があります。



図 29 : フォーカスされている項目が視覚的に認識できる例

検索キーワードの入力欄にフォーカスが当たると、「|」

が点減する。

## 24 現在位置を示す

(7.2.4.8/AAA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) ウェブサイトの階層構造を示す「パンくずリスト<sup>11</sup>」を提供する。
- (2) サイトマップを提供する。
- (3) ナビゲーション内で現在位置を示す。

### 【解説】

ウェブサイトは、多くのウェブページ等を含み複雑な構成になっています。そのため、現在閲覧しているページがウェブサイトのどこに位置しているのかを知ることは、効率的な情報収集には欠かせません。

階層構造に関する情報と上位階層へのリンク機能を有する「パンくずリスト」、サイト全体の構成・構造を見渡すことができる「サイトマップ」のほか、ナビゲーション内で現在位置を示す必要があります。

### 図 30：現在地を示す仕組みの例

The screenshot shows the Yamaguchi Prefecture website's navigation menu. The breadcrumb path is highlighted with a red circle: ホーム > 分野で探す > **暮らし・環境・観光** > 食生活・消費生活 > 食育. The '暮らし・環境・観光' menu item is also circled in red. Below the breadcrumb, the page title is '食生活・消費生活' and the sub-section is '食育'. A list of links related to '食育' is provided, including '岡山県食育推進計画' and '岡山県備中地域の食育'.

「食育」のページが、「暮らし・環境・観光」に属していることや、上位階層が「食生活・消費生活」であることが示されています。

<sup>11</sup> ウェブサイトにおけるそのページの位置を、階層構造の上位ページへのリンクで簡潔に記述したもの。童話「ヘンゼルとグレーテル」の中で、森に入るとき迷わず帰れるようにパンくずを捨てながら進んだことが名前の由来。

## 25 言語を指定する

(7.3.1.1/A、7.3.1.2/AA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 各ページの `html` 要素に、適切な `lang` 属性（もしくは `xml:lang` 属性）を記述する。  
（日本語の場合、`<html lang="ja">`）
- (2) ページの途中で使用する言語が変わる場合には、変わった箇所ですべて適切な `lang` 属性を記述する。

### 【解説】

ウェブサイトは国・言語を問わず、共通の仕様・規格に基づいて制作されています。そのため、そのウェブサイト若しくはウェブコンテンツの一部が、どの言語によって記述されているかを明確に示す必要があります。言語が明確ではない場合、音声読み上げソフトが正しい発音で読み上げない等の問題が生じる可能性があります。

また、ウェブページごとに適切な言語を指定するだけでなく、途中で言語が変わる際にもその都度適切に言語を指定しましょう。

HTML においては、`html` 要素の `lang` 属性を用いて言語を指定します。

日本語ウェブサイトにおける指定例

```
<html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml" lang="ja" xml:lang="ja">
```

途中で言語が変わる場合の指定例

```
<ul>  
<li>こんにちは</li>  
<li lang="en" xml:lang="en">hello</li>  
<li lang="zh-CN" xml:lang="zh-CN">你好</li>  
<li lang="ko" xml:lang="ko">안녕하세요</li>  
</ul>
```

## 26 分かりやすい言葉・表現を使用する

(7.3.1.3/AAA、7.3.1.4/AAA、7.3.1.5/AAA、7.3.1.6/AAA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 慣用句・専門用語・行政用語など一般的ではない言葉は、できる限り説明を付加するように心がける。
- (2) 略語には、できる限り正式名称を付加するように心がける。
- (3) 理解の難しい内容や複雑な文章には、イラストによる図解を付加する、又は文章をより読みやすくすることを心がける。
- (4) 難読地名・人名など読みの難しい言葉は、できる限り読みがなを付加するよう心がける。
- (5) 添付ファイルのみのページを作成しない。
- (6) 機種依存文字（図 31）を使用しない。

### 【解説】

年齢・知識・経験の異なる利用者が、一つのウェブサイトを利用します。そのため、それらに関係なく利用者の多くが理解しやすくなるような分かりやすい言葉・分かりやすい表現を使用しましょう。音声読み上げソフトなどで誤読を生じさせないように次のような配慮が必要です。

内容	標準的な表記の例	好ましくない例
日付・曜日	2011年4月1日（金曜日）	'11.4.1、2011/4/1(fri)
時刻	午後3時10分、15時10分	3:10 PM、15'10
注釈	注記1、注1	*1、※1
英単語	（新規）掲載、更新	NEW、update

また、PDF、Excel等の添付ファイルへのリンクのみで構成されるページは、それらを利用できない利用者には何の情報も得られず、分かりにくいページとなってしまいます。テキストによる情報提供をできる限り行なうことが望ましいですが、少なくとも、添付ファイルの内容に関する説明（概要）を記すことが必要です。

丸数字やローマ数字等のいわゆる「機種依存文字」については、閲覧する環境によって、意味が変わってしまう、又は情報が損なわれるため使用しないでください。

図 31：機種依存文字の例

① ② ③ | II III (株) km ㊦ ㊧ mm† cm†

## 27 フォーカスを受け取った時に、状況を変化させない

---

(7.3.2.1/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) ページを開いた際、ポップアップなど別のウィンドウを開かない。
- (2) 新しいウィンドウを開く際には、事前に通知をする。

### 【解説】

フォーカスを受け取った時に、状況の変化（ウェブコンテンツの配置が大きく変化、新しいページへの移動など）を引き起こしてはならない。特に、ウェブページ全体を一度に見ることのできない利用者にとって、何が起きたのかが理解できず、次にすべき行動も把握できない可能性が高くなります。

## 28 ボタン等を操作した時に限り、状況を変化させる

---

(7.3.2.2/A)

### 【達成のためのポイント】

- (1) 「実行」、「選択」などを利用者が操作しない限り、状況を変化させない。
- (2) 状況の変化を引き起こす入力フォームを構成する部品は、事前に変化の内容を通知する。

### 【解説】

「実行」ボタンを伴わないプルダウンメニューは、キーボードで操作をする場合、項目を選択している最中にページ移動が実行されてしまうため、意図通りの項目を選択することが難しくなります。

また、入力フォームに特定の値を入力した途端、他の入力項目に変化が生じる、又は別の画面に移動してしまうと、利用者は、その変化に対応できなくなってしまう。そのような状況の変化を引き起こす場合には、状況の変化を引き起こす条件や結果について事前に知らせておくことが必要です。

## 29 共通するナビゲーションを提供する

(7.3.2.3/AA)

### 【達成のためのポイント】

- (1) ウェブサイト内のすべてのページに、共通するナビゲーションを提供する。
- (2) 共通するナビゲーションには、サイトロゴ、主要なカテゴリへのリンク、検索機能、「パンくずリスト」及び達成基準 17 に示すリンクを含む。

### 【解説】

ナビゲーションの機能・配置・見た目を統一することにより、利用者はウェブサイトの使い方を理解しやすくなり、円滑なサイト利用を期待することができます。また、ナビゲーション部分、コンテンツ部分が明確に区別できることにより情報を探すことに集中しやすくなります。

図 32 : 共通するナビゲーションの例





### 30 同じ機能・内容をもつウェブコンテンツには、一貫した名称を用いる

(7.3.2.4/AA)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) ウェブサイトの入口となるページのラベルは「ホーム」、「トップページ」などを一貫して用いる。
- (2) 同じ機能を持つリンクには、一貫したリンクテキストを用いる。
- (3) 同じ機能をもつ画像（リンクボタンやアイコン）には、一貫した alt 属性を付与する。

#### 【解説】

同じ内容や機能を有しているにもかかわらず、ページによって見た目や名称が異なっている場合、利用者は、それが同じ内容や機能であるかを判断できなくなる可能性があります。ウェブサイト全体で、機能ごとに一貫した名称を用いるようにしましょう。

図 33 : (好ましくない例) <http://www.pref.okayama.jp/>へのリンクが一貫していない例



図 34 : (好ましくない例) ページ上部へのリンクが一貫していない例



### 31 入力フォームの入力条件やエラー内容は、テキストで明確に示す

(7.3.3.1/A、7.3.3.2/A、7.3.3.3/AA、7.3.3.4/AA、7.3.3.6/AAA)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) 入力フォームの入力欄には、できる限り条件を設けない。
- (2) 入力条件を設ける場合には、明確にテキストで説明する。
- (3) 入力内容にエラーがある場合には、エラーの箇所をテキストで示し修正内容を提示する。
- (4) 情報を送信する前に、入力内容を確認・修正をする仕組みを提供する。

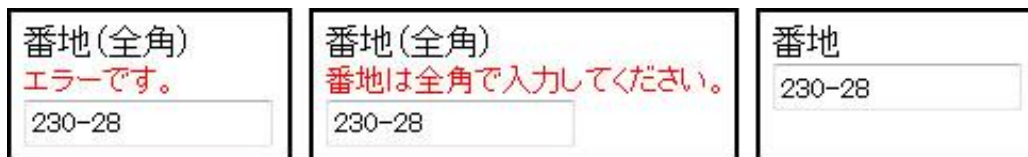
#### 【解説】

入力フォームに入力された内容にエラーがあった場合には、エラーの箇所やエラーの理由、修正方法をテキストで明確に説明しましょう。

利用者は、「エラー」とだけ表示されても、なぜエラーになったのか理解できない場合があるかもしれません。また、入力欄とエラー表示箇所が離れている、又はエラー箇所が色だけで表現されている場合、エラー箇所の特定制が難しくなり目的を達成できなくなってしまう。

更に、エラー内容を明確に説明していても、エラーが出てしまうこと自体にあせってしまう利用者もいます。全角・半角の指定などプログラムで解決できる可能性があるものについては、できる限り条件を設けないといった方法も有効です。

図 35 : 入力フォーム入力におけるエラー表示等の例



左の図では、「番地」の入力において、全角文字での入力を求めています。半角文字を入力しているためエラーとなりました。「エラーです。」としか示されていないため、利用者は、なぜエラーになったのか理解できない可能性があります。

真ん中の図は、左の図同様の条件ですが、エラーの内容を明確に示していますので、利用者は、全角文字で入力すればいいことが分かります。

右の図は、全角・半角を指定していないため、利用者は全角・半角を問わず自由に入力することができます。

この場合、右の図が最も好ましい例となります。

図 36 : 入力フォーム入力における標準的な画面遷移



入力内容を確認・修正する仕組みを必ず提供しましょう。

### 32 ウェブコンテンツ技術の仕様に準拠する

---

(7.4.1.1/A、7.4.1.2/A)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) 関連する文法、技術の規格や仕様の実用的な最新版を採用する。
- (2) (1) に基づいて採用したウェブコンテンツ技術の仕様に準拠する。

#### 【解説】

音声読み上げソフトなど支援技術の多くは、ウェブコンテンツ技術の仕様に基づいて設計・開発されています。そのため、ウェブコンテンツ技術の仕様に準拠したウェブコンテンツを作成することにより支援技術が正しく動作する可能性が高まります。

作成したウェブコンテンツがウェブコンテンツ技術に則って作成されているかは、下記のツールを用いて検証することができます。

- ・ HTML・XHTML 構文の検証  
Markup Validation Service  
～参考URL～  
<http://validator.w3.org/>
- ・ CSS 構文の検証  
CSS Validation Service  
～参考URL～  
<http://jigsaw.w3.org/css-validator/>

また、ウェブコンテンツ技術やそれに基づいて開発される支援技術・機器等は、日々、進化しています。より多くのウェブコンテンツの利用が可能になる、又は新たな機能が生まれることもあります。それらに十分対応していくためには、関連する文法、技術の規格・仕様の最新版を採用していくことが必要です。

ただし、最新版の普及が進んでいない場合や修正版の配布が待たれる状態など、その最新版が実用的な段階に達しているかを十分に考慮する必要があります。

### 33 一般的なルールや法規を遵守する

(JIS X8341-3:2010 規定なし)

#### 【達成のためのポイント】

- (1) リンク切れがないか十分に確認する
- (2) リンク先ページの内容に注意を払う
- (3) 適切な「引用」を行う
- (4) 個人が特定できる情報（画像を含む）を掲載しない

#### 【解説】

JIS X8341-3:2010 には規定されていませんが、ウェブサイトには、品質を保つ上でルールがあります。

ウェブサイトはウェブページ同士の相互リンクによって成り立っています。そのため、リンク切れがある場合、利用者は必要な情報を得られなくなってしまいます。岡山県ウェブサイト以外へのリンク（外部リンク）も多数存在していますので、リンク先が存在しているか（リンク切れを起こしていないか）を定期的を確認するようにしましょう。

また、リンク設定後にリンク先の内容が公序良俗に反する情報、虚偽の情報などに変更されている可能性もありますので注意しましょう。

ウェブサイトでは、岡山県以外が著作権を有する著作物を扱うことがあります。その場合には、出典を明記する、引用部分とそれ以外の主従関係を明確にする（引用部分の方が、文章量が少ない）など著作権法における正当な「引用」となるよう注意しましょう。フレーム内のリンクなど作成者が不明確になる表示方法を行わないでください。

なお、岡山県が著作権を有する場合でも、個人が特定可能な人物の画像を本人の許可なく公開すると肖像権の侵害に当たるとされていますので注意が必要です。

- ・ 岡山県個人情報保護条例（岡山県条例第三号）

## 第 8 試験実施方法

---

JIS X 8341-3:2010 の箇条 8「試験方法」に基づく試験を行う際は、情報通信アクセス協議会・ウェブアクセシビリティ基盤委員会作成の「JIS X 8341-3:2010 試験実施ガイドライン」の最新版に基づいて行ってください。

- ・ JIS X 8341-3:2010 試験実施ガイドライン

～参考URL～

<http://www.ciaj.or.jp/access/web/docs/jis2010-test-guidelines/>

「実装チェックリスト」及び「達成基準チェックリスト」は、本指針の付属資料を使用してください。

### 附則

本指針は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

実装方法チェックリスト

細分箇条	達成基準	達成基準に関する達成基準	達成基準に関する達成基準	実装方法	適用	試験方法	注記
7.1.1.1	非テキストコンテンツに関する達成基準	1. img要素にalt属性がある。	1. img要素にalt属性がある。		適用	自動化試験	
		2. area要素にalt属性がある。	2. area要素にalt属性がある。		適用	自動化試験	
		3. input要素の画像ボタンにalt属性に通切な代替テキストを記述する。	3. input要素、img要素、input要素の画像ボタンのalt属性に通切な代替テキストを記述する。		適用	自動化試験	
		4. 隣り合う画像とテキストのリンクが同一のhref属性を持つ場合、画像とテキストを1つの要素でマークアップする。	4. 隣り合う画像とテキストのリンクが同一のhref属性を持つ場合、画像とテキストを1つの要素でマークアップする。		適用	自動化試験	
		5. ASCHART、SVG要素を使用しない。	5. ASCHART、SVG要素を使用しない。		適用	自動化試験	
		6. 画像とテキストを1つの要素でマークアップする。	6. 画像とテキストを1つの要素でマークアップする。		適用	自動化試験	
		7. 要素のリンクの目的を説明するテキストリンクを提供する。	7. 要素のリンクの目的を説明するテキストリンクを提供する。		適用	自動化試験	
		8. label要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける。	8. label要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける。		適用	自動化試験	
7.1.2.1	収録済みの音声しか含まないメディア及び収録済みの映像しか含まないメディアに関する達成基準	9. 支援技術が無視すべき画像のimg要素は、alt属性として示している。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声しか含まないコンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。	9. 支援技術が無視すべき画像のimg要素は、alt属性として示している。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声しか含まないコンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。		適用	自動化試験	
		10. CSSが指定する画像は、基動的なものである。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声しか含まないコンテンツに対して、代替コンテンツの書き出しテキストを提供し、音声を提供しない。	10. CSSが指定する画像は、基動的なものである。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声しか含まないコンテンツに対して、代替コンテンツの書き出しテキストを提供し、音声を提供しない。		適用	自動化試験	
		11. 時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声しか含まないコンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。	11. 時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声しか含まないコンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。		適用	自動化試験	
7.1.2.2	収録済みの音声コンテンツのキャプションに関する達成基準	1. ツリに字幕キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声コンテンツは、明確にラベル付けする。	1. ツリに字幕キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声コンテンツは、明確にラベル付けする。		適用	自動化試験	
		2. ツリに音声キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声コンテンツは、明確にラベル付けする。	2. ツリに音声キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声コンテンツは、明確にラベル付けする。		適用	自動化試験	
		3. 音声しか含まないメディアの収録済みの音声コンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。	3. 音声しか含まないメディアの収録済みの音声コンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。		適用	自動化試験	
7.1.2.3	収録済みの映像コンテンツの代替コンテンツ又は音声ガイドに関する達成基準	1. ツリに代替コンテンツ又は音声ガイドを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの映像コンテンツは、明確にラベル付けする。	1. ツリに代替コンテンツ又は音声ガイドを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの映像コンテンツは、明確にラベル付けする。		適用	自動化試験	
		2. ツリに代替コンテンツ又は音声ガイドを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの映像コンテンツは、明確にラベル付けする。	2. ツリに代替コンテンツ又は音声ガイドを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの映像コンテンツは、明確にラベル付けする。		適用	自動化試験	
		3. 音声しか含まないメディアの収録済みの映像コンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。	3. 音声しか含まないメディアの収録済みの映像コンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。		適用	自動化試験	
7.1.2.4	ライブの音声コンテンツのキャプションに関する達成基準	1. ツリに字幕キャプション(常に表示)もしくはクローズドキャプション(オン/オフ機能)を用いてクロージング・キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声コンテンツは、明確にラベル付けする。	1. ツリに字幕キャプション(常に表示)もしくはクローズドキャプション(オン/オフ機能)を用いてクロージング・キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声コンテンツは、明確にラベル付けする。		適用	自動化試験	
		2. ツリに音声キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声コンテンツは、明確にラベル付けする。	2. ツリに音声キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの音声コンテンツは、明確にラベル付けする。		適用	自動化試験	
		3. 音声しか含まないメディアの収録済みの音声コンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。	3. 音声しか含まないメディアの収録済みの音声コンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。		適用	自動化試験	
7.1.2.5	収録済みの映像コンテンツの音声ガイドに関する達成基準	1. ツリに字幕キャプション(常に表示)もしくはクローズドキャプション(オン/オフ機能)を用いてクロージング・キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの映像コンテンツは、明確にラベル付けする。	1. ツリに字幕キャプション(常に表示)もしくはクローズドキャプション(オン/オフ機能)を用いてクロージング・キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの映像コンテンツは、明確にラベル付けする。		適用	自動化試験	
		2. ツリに音声キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの映像コンテンツは、明確にラベル付けする。	2. ツリに音声キャプションを提供する。時間の経過に伴って変化するメディアの収録済みの映像コンテンツは、明確にラベル付けする。		適用	自動化試験	
		3. 音声しか含まないメディアの収録済みの映像コンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。	3. 音声しか含まないメディアの収録済みの映像コンテンツは、代替テキストを提供し、音声を提供しない。		適用	自動化試験	
7.1.3.1	情報及び関係性に関する達成基準	1. セマンティックなマークアップを用いて、強調したテキスト又は特別なテキストを示す。	1. セマンティックなマークアップを用いて、強調したテキスト又は特別なテキストを示す。		適用	自動化試験	
		2. 引用箇所がある場合、blockquote要素でセマンティックにマークアップする。	2. 引用箇所がある場合、blockquote要素でセマンティックにマークアップする。		適用	自動化試験	
		3. テキストにマークアップする。	3. テキストにマークアップする。		適用	自動化試験	
		4. 下付き文字、上付き文字がある場合、それらを sub、sup要素でセマンティックにマークアップする。	4. 下付き文字、上付き文字がある場合、それらを sub、sup要素でセマンティックにマークアップする。		適用	自動化試験	
		5. フォントの種類や形状で情報を伝えている場合、その情報をテキストで提供する。	5. フォントの種類や形状で情報を伝えている場合、その情報をテキストで提供する。		適用	自動化試験	
		6. CSSを用いて構造と表現を分離する。	6. CSSを用いて構造と表現を分離する。		適用	自動化試験	
		7. 色の手がかりを用いる場合には、セマンティックにマークアップする。	7. 色の手がかりを用いる場合には、セマンティックにマークアップする。		適用	自動化試験	
		8. テーブルのマークアップを用いて、表の情報を提示する。	8. テーブルのマークアップを用いて、表の情報を提示する。		適用	自動化試験	
		9. caption要素を用いて、テーブルの表題とテーブルを関連付ける。	9. caption要素を用いて、テーブルの表題とテーブルを関連付ける。		適用	自動化試験	
		10. table要素の summary 属性を用いて、テーブルの概要を提供する。	10. table要素の summary 属性を用いて、テーブルの概要を提供する。		適用	自動化試験	
		11. テーブルの方向が行方向か列方向か見出しセルがある場合、scope属性を用いて、見出しセルとデータセルを関連付ける。	11. テーブルの方向が行方向か列方向か見出しセルがある場合、scope属性を用いて、見出しセルとデータセルを関連付ける。		適用	自動化試験	
		12. は、id 属性及び headers 属性を用いて、データセルの見出しセルを関連付ける。	12. は、id 属性及び headers 属性を用いて、データセルの見出しセルを関連付ける。		適用	自動化試験	
		13. label要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける。	13. label要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける。		適用	自動化試験	
		14. リストに ol 要素、ul 要素、dl 要素を用いて、リストの情報を提示する。	14. リストに ol 要素、ul 要素、dl 要素を用いて、リストの情報を提示する。		適用	自動化試験	
		15. h1 要素~h6 要素を用いて、見出しを指定する。	15. h1 要素~h6 要素を用いて、見出しを指定する。		適用	自動化試験	

実装方法チェックリスト

細分箇条	達成基準	等級	項目	実装方法	適用	試験方法	注記
7.1.3.2	意味のある順序に関する達成基準	A	1. コンテンツを意味のある順序で並べる 2. 単語の文字間にスペースやタブを用いない			観察及び専門家評価 自動化試験	
7.1.3.3	感覚的な特徴に関する達成基準	A	1. 理解すべき情報を感覚的にだけ伝えることのないように、テキストでも情報を伝える 2. 色の黒いので伝えている情報を伝える際は、視覚的な手がかりを補足する			観察及び専門家評価 観察及び専門家評価	
7.1.4.1	色の使用に関する達成基準	A	1. リンク又はコントロールを色だけで識別している箇所の視覚的な手がかりを補足するために、周囲にあるテキストとのコントラスト比を3:1以上にする 2. ウェブページ上にある音声は自動的に再生しない 3. 4.5:1以上のコントラスト比をもたせる			観察及び専門家評価 自動化試験	
7.1.4.2	音声制御に関する達成基準	A	1. テキストのサイズを変更した際に、テキスト・コンテンツもサイズ変更するようにし、%、キーワード、em単位を用いてフォントサイズを指定する			観察及び専門家評価	
7.1.4.3	最低限のコントラストに関する達成基準	AA	1. 画面に描かれた文字は、必要不可欠なものに限られる 2. CSSを用いて、テキストの視覚的な装飾を制御する 3. 画面上のコントロールで、画像化された文字をテキストに置き換えることができる			観察及び専門家評価 観察及び専門家評価	
7.1.4.4	テキストのサイズ変更に関する達成基準	AA	1. イベントハンドラでJavaScriptを用いて制御している場合、キーボードで操作できることを確認する。 ただし、軌跡に依存した入力力を要する機能（お絵描きプログラム等）は除く			観察及び専門家評価	
7.2.1.1	キーボード操作に関する達成基準	A	1. コンテンツをスクリーンリーダーで読み取れるようにする 2. コンテンツをスクリーンリーダーで読み取れない場合は、制限時間は必要不可欠である場合を除く			観察及び専門家評価	
7.2.2.1	一時停止、停止及び非表示に関する達成基準	A	1. 動きのある、点滅している、又はスクロールしている情報は6秒以内に停止する。 ただし、動き、点滅、又はスクロールが必要不可欠な動作の一部である場合は除く 2. 動きのある、点滅している、又はスクロールしている情報は6秒以上継続する場合、利用者がそれらを一時停止、停止、又は非表示にすることをできるメカニズムがある 3. コンテンツは自動的にスクロールしない			観察及び専門家評価 観察及び専門家評価	
7.2.3.1	3回のせん(円)光又ははき(間)値以下に関する達成基準	A	1. どの秒間においても、コンテンツに3回よりも多く閃光を放つコンポーネントがない			観察及び専門家評価	
7.2.4.1	ブロックスキップに関する達成基準	A	1. メインコンテンツへ直接移動するリンクを各ページの先頭に追加する			自動化試験	
7.2.4.2	ページタイトルに関する達成基準	A	1. 切替要素を用いて、コンテンツの内容が分かるページタイトルを備える			観察及び専門家評価	
7.2.4.3	フォーカス順序に関する達成基準	A	1. が意味又は操作に影響を及ぼす場合、フォーカス可能なコンポーネントは意味及び操作性を保持した順序でフォーカスを受け取るように以下のいずれかを用いて、ウェブページを動的に変化させる 2) テキスト非依存の方法でカスタム・ダイアログを作成する 3) DOMを用いて、ページ上にある複数のセクションを並び替える			観察及び専門家評価	
7.2.4.4	文脈におけるリンクの目的に関する達成基準	A	1. 要素のリンクの目的を説明するテキストリンクを提供する 2. イメージマップの alt 属性に代替テキストを提供する 3. リンクのラベルと、文章中のテキスト・見出しリスト項目を組み合わせてリンクの目的を特定する 4. サイトマップを提供する			観察及び専門家評価 自動化試験	
7.2.4.5	複数の到達手段に関する達成基準	AA	1. サイトマップを提供する 2. サイト内検索を提供する			観察及び専門家評価	
7.2.4.6	見出し及びラベルに関する達成基準	AA	1. 内容が分かる見出しをつける 2. 目的や内容が分かるラベルを提供する			観察及び専門家評価	
7.2.4.7	視覚的に認識可能なフォーカスに関する達成基準	AA	1. フォーカスを受け取った際に、ユーザーエージェントによって強調されるユーザーインターフェイスコンポーネントを用いる 2. テキストのフォーカスインジケータを除去しない 3. テキストリンクを備える			観察及び専門家評価	
7.2.4.8	現在位置に関する達成基準	AAA	1. パンくリストを提供する 2. サイトマップを提供する 3. ナビゲーションバー内で現在位置を示す			観察及び専門家評価	
7.3.1.1	ページの言語に関する達成基準	A	1. html要素の言語属性を用いる			観察及び専門家評価	
7.3.1.2	部分的に用いられている言語に関する達成基準	AA	1. 言語属性を用いて、自然言語の変更を指定する			観察及び専門家評価	



実装方法チェックリスト

細分箇条	達成基準	等級	項目番号	実装方法	適用	試験方法	注記
7.3.2.1	オンフォーカスに関する達成基準	A	1	状況の変化を生じるトリガーには、“focus”ではなく、“activate”を用いる。		自動化試験	
7.3.2.2	ユーザインタフェースコンポーネントによる状況の変化に関する達成基準	A	1	状況の変化を開始する際は、実行ボタンを提供する。状況の変化を開始する実行ボタンを提供できない場合、状況の変化を引き起こすフォームのコントロールが変化する前に、何が起るのかを説明する。		観察及び専門家評価	
7.3.2.3	一貫したナビゲーションに関する達成基準	AA	1	繰り返されるコンポーネントが表示されるたびに、それを相対的に同じ順序で提示する。		観察及び専門家評価	
7.3.2.4	一貫した識別性に関する達成基準	AA		HTMLの仕様文法に則った上で、同じ機能を有するコンテンツに同じラベル、識別名及び代替テキストを用いる。		観察及び専門家評価	
7.3.3.1	入力エラー箇所の特定に関する達成基準	A	1	入力が必要である入力フィールドを含む場合、未入力の必須項目を特定するための説明テキストを提供する。		観察及び専門家評価	
7.3.3.2	ラベル又は説明文に関する達成基準	A	2	特別なフォーマットまたは値であることを求める場合、要求されたフィールドまたは値でないことを説明するテキストを提供する。入力項目とラベルの関係がばくちから完全に脱離するlabel要素を用いて、テキストのラベルとフォーム・コントロールを関連付ける。		観察及び専門家評価	
7.3.3.3	入力エラー修正方法の提示に関する達成基準		1	入力が必要である入力フィールドを含む場合、未入力の必須項目を特定するための説明テキストを提供する。		観察及び専門家評価	
		AA	2	要求されたフォーマット又は値ではなかった際に、テキストの説明文を提供する。		観察及び専門家評価	
			3	値の限定された値のうちの二つであることが要求される場合、利用者が認められた値以外の情報を提供した際に、テキストの説明文を提示する。		観察及び専門家評価	
7.3.3.4	法的義務、金融的取引、データ変更及び回答送信のエラー回避に関する達成基準	AA	1	送信する前に、利用者が回答を確認及び修正できるようにする。		観察及び専門家評価	
7.3.3.6	エラー回避に関する別々の達成基準	AAA	1	送信する前に、利用者が回答を確認及び修正できるようにする。		観察及び専門家評価	
7.4.1.1	構文エラーに関する達成基準	A	1	標準的なHTMLのコントロールだけを用いる。		観察及び専門家評価	
7.4.1.2	プログラムが解釈可能な識別名、役割及び設定可能な値に関する達成基準	A	2	WCAG 2.0 または、US X8341-3:2010 に準拠していることが確認されたものを使う。		観察及び専門家評価	

# 達成基準チェックリスト

岡山県ウェブコンテンツ作成指針		JIS X 8341-3:2010		結果		
箇条	達成基準	細分箇条	達成基準	達成等級	適用 場合	備考
1	テキストでない情報には適切な代替テキストを提供する	7.1.1.1	非テキストコンテンツに関する達成基準	A		
2	音声のみもしくは映像のみは映像のみのコンテンツに対して、代替情報を提供する	7.1.2.1	収録済みの音声しか含まないメディア及び収録済みの映像しか含まないメディアに関する達成基準	A		
3	同期したメディアに含まれる音声コンテンツに対して、字幕を提供する	7.1.2.2	収録済みの音声コンテンツのキャプションに関する達成基準	A		
4	同期したメディアに含まれる収録済みの映像コンテンツに対して、音声ガイドを提供する	7.1.2.3	収録済みの映像コンテンツの代替コンテンツ又は音声ガイドに関する達成基準	A		
3	同期したメディアに含まれる音声コンテンツに対して、字幕を提供する	7.1.2.4	ライブの音声コンテンツのキャプションに関する達成基準	AA		
4	同期したメディアに含まれる収録済みの映像コンテンツに対して、音声ガイドを提供する	7.1.2.5	収録済みの映像コンテンツの音声ガイドに関する達成基準	AA		
5	文書の構造は、適切なHTML要素を用いて記述する	7.1.3.1	情報及び関係性に関する達成基準	A		
6	ウェブコンテンツの意味の順序と、読み上げ順序を一致させる	7.1.3.2	意味のある順序に関する達成基準	A		
7	形、大きさ、位置、方向、音だけに依存した情報を提供しない	7.1.3.3	感覚的な特徴に関する達成基準	A		
8	色の違いだけに依存した情報を提供しない	7.1.4.1	色の使用に関する達成基準	A		
9	ウェブコンテンツの音声は、音声読み上げソフトの音声を妨げない	7.1.4.2	音声制御に関する達成基準	A		
10	文字色と背景色のコントラストを確保する	7.1.4.3	最低限のコントラストに関する達成基準	AA		
11	文字サイズを変更可能にする	7.1.4.4	テキストのサイズ変更に関する達成基準	AA		
12	必要不可欠な場合を除いて、画像化された文字を使用しない	7.1.4.5	画像化された文字に関する達成基準	AA		
13	キーボード操作だけで、すべての情報・機能が利用できるように作成する	7.2.1.1	キーボード操作に関する達成基準	A		
13	キーボード操作だけで、すべての情報・機能が利用できるように作成する	7.2.1.2	フォーカス移動に関する達成基準	A		
14	コンテンツの利用には、原則として時間制限を設けない	7.2.2.1	調整可能な制限時間に関する達成基準	A		
15	コンテンツを動かしたり、自動更新させたりしない	7.2.2.2	一時停止、停止及び非表示に関する達成基準	A		
16	閃光を放つコンテンツは、閃光の回数・大きさ・色彩を調整する	7.2.3.1	3回のせん光(閃)光又はいき(閃)値以下に関する達成基準	A		
17	複数のページで繰り返されるコンテンツは、読み飛ばせる仕組みを提供する	7.2.4.1	ブロックスキップに関する達成基準	A		
18	分りやすいタイトルをつける	7.2.4.2	ページタイトルに関する達成基準	A		
19	ウェブコンテンツの意味の順序とフォーカスの順序を一致させる	7.2.4.3	フォーカス順序に関する達成基準	A		
20	リンク先を予測できるリンクテキストをつける	7.2.4.4	文脈におけるリンクの目的に関する達成基準	A		
21	一つのコンテンツに対して、複数の到達手段を提供する	7.2.4.5	複数の到達手段に関する達成基準	AA		
22	分りやすい見出しやラベルをつける	7.2.4.6	見出し及びラベルに関する達成基準	AA		
23	フォーカスを出している項目が視覚的に認識できるようにする	7.2.4.7	視覚的に認識可能なフォーカスに関する達成基準	AA		
24	現在位置を示す	7.2.4.8	現在位置に関する達成基準	AAA		
25	言語を指定する	7.3.1.1	ページの言語に関する達成基準	A		
25	言語を指定する	7.3.1.2	部分的に用いられている言語に関する達成基準	AA		
26	分りやすい言葉・表現を使用する	7.3.1.3	一般的でばなない用語に関する達成基準	AAA		
26	分りやすい言葉・表現を使用する	7.3.1.4	略語に関する達成基準	AAA		
26	分りやすい言葉・表現を使用する	7.3.1.5	読解レベルに関する達成基準	AAA		
26	分りやすい言葉・表現を使用する	7.3.1.6	発音及び読み仮名に関する達成基準	AAA		
27	フォーカスを受け取った時に、状況を変化させない	7.3.2.1	オンフォーカスに関する達成基準	A		
28	ボタン等を操作した時に限り、状況を変化させる	7.3.2.2	ユーザーインタフェースコンポーネントによる状況の変化に関する達成基準	A		
29	共通するナビゲーションを提供する	7.3.2.3	一貫したナビゲーションに関する達成基準	AA		
30	同じ機能・内容をもつウェブコンテンツには、一貫した名称を用いる	7.3.2.4	一貫した識別性に関する達成基準	AA		
31	入力フォームの入力条件やエラー内容は、テキストで明確に示す	7.3.3.1	入力エラー箇所の特定に関する達成基準	A		
31	入力フォームの入力条件やエラー内容は、テキストで明確に示す	7.3.3.2	ラベル又は説明文に関する達成基準	A		
31	入力フォームの入力条件やエラー内容は、テキストで明確に示す	7.3.3.3	入力エラー修正方法の提示に関する達成基準	AA		
31	入力フォームの入力条件やエラー内容は、テキストで明確に示す	7.3.3.4	法的義務、金融的取引、データ変更及び回答送信のエラー回避に関する達成基準	AA		
31	入力フォームの入力条件やエラー内容は、テキストで明確に示す	7.3.3.6	エラー回避に関する例外的でない達成基準	AAA		
32	ウェブコンテンツ技術の仕様に準拠する	7.4.1.1	構文解析に関する達成基準	AAA		
32	ウェブコンテンツ技術の仕様に準拠する	7.4.1.2	プログラムが解釈可能な識別名、役割及び設定可能な値に関する達成基準	A		

## 作成要領

- 実装方法チェックリストに基づき、この達成基準チェックリストを作成してください。
  - 「適用」欄には、その達成基準を適用する場合には「○」、適用しない場合には「○」、適用しない場合は「×」を記載してください。また、その旨を備考欄に記載してください。
  - 「適用」欄には、その達成基準に適用している場合には「○」、適用していない場合は「×」を記載してください。
- 例えば、音声コンテンツが存在しない場合には、音声コンテンツに関する達成基準は適用されないので、適用欄:「一」、適用欄:「○」となります。